

Motif 3の台頭と日韓AI国家戦略の分岐点

韓国発のLLM「Motif 3」が国際的に高評価を得た背景と、日本が選択した独自のAI戦略との違いを明らかにすること。

韓国の勝利の方程式：Motif 3と「独派模」プロジェクト



戦略的アプローチの比較



汎用LLMの
世界ランキング入り



完全FROM
スクラッチ強制



脱藩式競争とGPU/
データの現物支給

開発目標



物理AI・ロボット向
け基盤モデル

開発手法



海外モデルの活用・
チューニング中心

支援体制



計算資源支援中心、
物理AIに巨額投資

日本の独自路線：物理AIへの特化と構造的制約



「フロンティア競争不参加」の決断

大規模事前学習からは撤退し、
Sakana AIのようにポストトレ
ーニング層に資源を集中。



1兆円



次なる戦場「物理AI」への
1兆円投資



コンソーシアム「Noetra」を技に、
2030年のReal-world Native
AI実現を目指す。



79万人
構造的な制約と人材不足
2030年に79万人のエンジニア
不足が予測され、日本語データ
の少なさも壁となっている。

